

## 博士論文要旨及び学位論文審査結果要旨

保健医療学研究科保健医療学専攻 博士後期課程 看護学分野 学籍番号: 2206001 氏名: 高谷 新		学位授与年月日	令和5年3月12日
		博士論文受理年月日	令和4年11月26日
		論文審査終了年月日	令和5年2月15日
博士論文名		看護職員のワーク・エンゲイジメントと看護師長のソーシャルサポート およびリーダーシップの関連に関する研究	
論 文 要 旨	本研究は病院看護職員のワーク・エンゲイジメントと看護師長および同僚からのソーシャルサポートとの関係、看護師長の自己効力感、リーダーシップの関係について調査を行ったものである。本研究の調査は、16 医療機関の看護職員、看護師長を対象に質問紙調査を実施し、統計学的に分析を行った。		
	研究1では、看護職員のワーク・エンゲイジメントと看護師長、同僚からのソーシャルサポートの関連についてマルチレベル相関分析を実施し、変数間の関連を確認した。結果として、看護職員個人レベルで、看護職員のワーク・エンゲイジメントと、看護師長、同僚からのソーシャルサポートの認識において調査を行ったすべての下位尺度に有意な正の相関を認めた。また集団(所属部署)レベルで看護職員のワーク・エンゲイジメントと有意な正の相関を認めたソーシャルサポートの認識の下位尺度は、看護師長からの動機づけ ( $r=.921, p<.05$ )、裁量権に関するサポート ( $r=.717, p<.05$ )、同僚の職務へのポジティブな態度への認識 ( $r=.899, p<.05$ ) であった。 研究2では、看護職員のワーク・エンゲイジメントと看護師長の自己効力感の関連について、看護職員による看護師長に対するリーダーシップの認識の媒介効果について分析を行った。結果として看護職員による看護師長のリーダーシップの認識は看護師長の自己効力感による看護職員のワーク・エンゲイジメントへの影響を完全に媒介していることが明らかとなった。また看護師長の自己効力感と看護職員のワーク・エンゲイジメントにおけるリーダーシップの認識の媒介効果は個人レベルでの効果であることが示唆された。 研究3では、看護師長のリーダーシップと看護職員の心身のストレス反応の関連について、仕事のストレス要因の高低による看護職員のワーク・エンゲイジメントの媒介効果への影響について調整媒介分析を用いて分析を行った。高ストレス状況下での変数間の関連について推定を行い、結果として課題志向、人間関係志向両方のリーダーシップの発揮が看護職員のワーク・エンゲイジメントを媒介し、心身のストレス反応に影響を与えていたことが明らかとなった。		

学位論文審査結果要旨	主査：看護学分野教授 齋藤美華 副査：作業療法学分野教授 佐藤寿晃 副査：東京大学大学院医学系研究科 精神保健・精神看護学分野准教授 宮本有紀
	<p>新規性・有効性</p> <p>看護職員の離職予防のためのメンタルヘルス対策は重要な課題であり、仕事に関連するポジティブで充実した心理状態であるワーク・エンゲイジメントの向上を視野に入れた対策が重視されている。この研究では、看護職員と看護師長双方を対象に、看護職員のワーク・エンゲイジメントと看護師長および同僚からのソーシャルサポートならびに看護師長の自己効力感との関連（研究1、2）、看護師長のリーダーシップがストレス反応に及ぼす影響（研究3）について明らかにしている。これまで看護職員そして職場組織を対象とした調査は存在しないため新規性が高い。そして、看護師長や同僚からのソーシャルサポートに肯定的な認識がある職員はワーク・エンゲイジメントが高い傾向があること、看護師長の自己効力感は看護職員のリーダーシップの認識を介してワーク・エンゲイジメントに影響を及ぼしていたこと、看護師長の課題思考および人間関係思考的なリーダーシップ両方の発揮が看護職員のワーク・エンゲイジメントの向上に効果をもたらすことを示しており、新規性が高い。また、看護師長による看護職員に対する裁量権に関するサポートは集団レベルで効果がある可能性を示している。さらに、看護師長の自己効力感を高める研修や看護管理者等からの支援は看護師長個人の効果に留まらずに間接的に看護職員のワーク・エンゲイジメントへの効果を高めることを示唆しており、有効性が高い研究である。</p> <p>信頼性</p> <p>この研究は、16病院の看護師長と看護職員に対し3回にわたり実施された大規模調査である。主要調査項目であるワーク・エンゲイジメントとソーシャルサポート、自己効力感、リーダーシップには信頼性・妥当性の確認が得られた尺度を使用して検証している。また、対象者の抽出、調査方法など適正な手続きを経て得られたデータに基づいており、データの信頼性を担保できている。統計学的な分析については適切な手法を選択しており、信頼性が担保できている。</p> <p>研究1、2が査読付き論文として発表済みである。すなわち、本論文が信頼性の高い研究であることは、当該学術領域からもすでに認められている。</p> <p>総評</p> <p>この研究は、従来実施されてきたメンタルヘルス不調者や職員個人への介入や対策に留まらず、不調を未然に予防する職場環境の整備等につながる有効な知見であり当該分野の発展に寄与する研究である。</p> <p>審査委員は、論文構成、背景の整理、問題設定、結果、考察、引用文献の適切性について慎重に検証し、博士論文として適切な水準に至っていることを確認した。本論文は博士論文に値する内容であると評価し、一致して、学位論文審査および最終試験に合格したと判断した。</p>